

第102回 病態生化学セミナー

日時：平成28年9月12日（月曜日）午後6時00分～

場所：医学部講義棟1階 国際交流ラウンジ

演題：EB ウイルスによる免疫恒常性の破綻

The breakdown of Immune homeostasis by Epstein-Barr virus

演者：安居 輝人 先生

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 感染症制御プロジェクト
プロジェクトリーダー

免疫担当細胞による機能的ネットワーク形成は免疫恒常性の維持に必須であるが、遺伝的背景及び環境因子により、容易に破綻することが知られている。この免疫脆弱性の理解は、1) 免疫応答成立機構、2) 病原体の免疫回避機構の解明に重要であり、ひいては感染症、免疫病の治療戦略を構築する上でのヒントとなるが、その全容は未だ明らかとなっていない。そこで我々は、上皮、B細胞特異的に潜伏感染し、自己免疫疾患やリンパ腫の causative agent として知られている Epstein-Barr (EB) ウイルスを「窓」にして、免疫脆弱性誘導機構の解明を試みている。EB ウイルスにコードされる2種類の膜タンパク Latent membrane protein (LMP1、LMP2a) は上皮がん、Bリンパ腫の両方に強く発現することが知られているが、我々はB細胞特に、胚中心B細胞特異的にLMP1あるいはLMP2aを発現するマウスを作製し、自己免疫疾患及びリンパ腫誘導過程を解析した。今回はEBウイルス関連疾患とウイルス由来膜タンパクとの関与を中心に議論したい。

【安居 輝人】

連絡先：

浦野 健

島根大学 医学部 病態生化学

TEL 0853-20-2126

E-mail turano@med.shimane-u.ac.jp

博士課程選択必修科目：基礎医科学(D3)、

博士課程選択科目：細胞生物学I(D6)、老化II(D20)、発生生物学I(D15)、発癌I(D22)、腫瘍生物学I(D24)、II(D25)、III(D26)、臨床腫瘍学I(D28)、II(D29)、III(D30)、IV(D31)、V(D32)、VI(D33)、地域がん治療学(D37-1)、口腔腫瘍学(D37-2)、薬物動態学I(D70)、腫瘍免疫学I(D79)、理工医学のための生物材料学(D103)

医科学専攻(修士課程)選択科目：

腫瘍の発生・増殖とその制御(M23)、理工医学のための生物材料学の基礎(M34)を履修している学生は、できる限りこのセミナーに出席してください。